

オーストラリアにおける人事労務管理とワーク・ライフ・バランスに関する一考察

渡部あさみ

(岩手大学准教授)

田中 秀樹

(京都学園大学准教授)

日本では、近年、ワーク・ライフ・バランス (Work-Life Balance, 以下 WLB)、ダイバーシティ・マネジメントやファミリー・フレンドリー企業といった「働きやすい職場」を意識した用語が飛び交うようになった。そうした議論の中心の一つに、労働時間管理のあり方をめぐる議論があり、国際比較を交えながら、長時間労働問題は正へ向けた労働時間管理のあり方が模索されている。

そこで、本稿は、日本よりも労働時間が短いにも関わらず、日本よりも労働生産性が高く、まとまった期間の休暇取得も可能であるオーストラリアに着目した。オーストラリアで働くホワイトカラー労働者（フルタイム労働者）を対象としたアンケート調査をもとに、人事労務管理及び、労働時間管理とプライベート領域での時間可用性 (Time Availability)、WLB に対する満足度の関係性について考察した。分析の結果、

オーストラリアでは、職場の労働力充足度を高めることで労働者の時間可用性及び WLB 満足度に正の影響を与えている可能性が示された。また、「コアありフレックスタイム制度」のもとで働く労働者は、「コアなしフレックスタイム制度」のもとで働く労働者よりもプライベート時間可用性と WLB への満足度が高いことも明らかとなった。この結果は、労働時間の管理を個人に委ねるよりも、企業側がある程度、労働時間の管理を行った方が、労働者の時間可用性及び WLB 満足度が高まる可能性を示唆しており、今後の日本の労働時間管理を考える上で参考となるだろう。

わたべ・あさみ 岩手大学人文社会科学部准教授。人的資源管理論専攻。

たなか・ひでき 京都学園大学経済経営学部准教授。人的資源管理論専攻。